



# アンコールクライマーズネット (ACN) ニューズレター

by Angkor Climbers net

アウトドア総合ブランド (株) モンベル、アウトドアギヤ輸入販売 (株) ロストアローより賛同・支援をいただいています。

<http://www.angkorclimbers.net/>

2011/8/31 第7号

## 特集 : 2010年度・会計報告



・(左) コンペが終わって、7月最初の日曜、YOUTH のメンバー、スムロン、キムスロイでクーレン山の最高点に登った。頂上に近づくと昨年5月に偵察したときにはなかった公園を思わせるゲートが出来ていた。最高点のすぐ近くに住んでいたのは怪しい家族だったが、そこは立派な寺に変わり、住民も増えていた。早くも秘境は失われた。昨年最高点探しを思いついたのは偶然だったのか？

・(下) モニイの弟、サムナン13才がクライミングに参加するようになった。クリップを教えるアシスタントのメサ (左)



・(右) 伊藤が留守の間、実務家のキムスロイが棒を振って、YOUTH のメンバーを指導しながらCCF (カンボジアクライミング連盟) の看板を作り、AWの事務棟西側に取り付けた。送られてきた写真には看板にACNが抜けている、と思ったら、ACNの看板は立て札でAWのゲート至近に置くそうで、現場での設計変更も臨機応変、キムスロイには何かの要求を2度念押しする必要はない。迷えば判断は聞いてくるが、重要でないことは自分で決めて実行する。スムロンの参謀として期待される。



# 2010 年度会計報告

(2010/7/1～2011/6/30)

注記：本書全般で“AW”表記は、アンコール・クライミング・ウォールを指す。

## ●収支概要

2010 年度の決算処理より抜粋した収支を下表に示す。なお、本表は別報：『2010\_ACN決算報告書』を元に単純収支を示したものの。詳細の決算報告では完成された人工壁を3年償却の「有形資産」としているため減価償却が生じ、借入が増加する。正式な決算内容は当該別報を参照されたい。

収入の部		支出の部		メモ
項目	金額(¥)	項目	金額(¥)	
寄付金・里親基金	¥1,142,704	現地施工業者委託	¥135,319	AW 外構工事、補修
会員年会費	¥0	資材購入 (修繕費)	¥65,388	AW 保守管理
オリジナルグッズ売上	¥35,719	渡航・滞在関係	¥936,380	AW、航空券、滞在費、保険を含む
人工壁利用者寄付	¥41,180	AW土地、拠点(家)の賃借	¥151,607	
銀行口座利子	¥34	現地光熱費	¥13,968	AW、ACN拠点
		講習、研修	¥109,842	現地 (交通費、飲食費等)
		現地スタッフ報酬	¥107,754	2名 (スムロン、キムスロイ)
		消耗品	¥79,258	事務備品、自転車なども含む
		通信	¥69,366	輸送、通信、電話代などを含む
		燃料	¥6,190	バイクガソリン代
		その他	¥91,903	WorkShop、翻訳、図書、薬、その他
<b>合計</b>	<b>¥1,219,637</b>		<b>¥1,766,975</b>	※損金¥547,338は伊藤からの借入金

※記帳は4種類の通貨 (円、USドル、カンボジア・リエル、タイ・バーツ) 毎に管理されているが、本表では分かりやすくするために2011年6月30日の円 / ドルレート (ドル買キャッシュ¥83.53/US\$) によってすべて円に変換して表している。

## ●勘定科目について

上表の支出項目は本来の勘定科目をグループでまとめて表記しているの以下に若干の解説をする。

NO	上表の収支項目	説明
1	現地施工業者委託	勘定科目「外注費」として計上したもの。AW外構工事のセラー鉄工所、隣地境界線に柵を作った現地工務店、敷地整地をしたスムロンの従兄弟などに支払った経費などを含む
2	資材購入 (修繕費)	AWの補修で自力の部分。紐、針金、ビス、ナット、ブルーシート、接着剤、蟻用のマシンオイルなど。他に雑費的だが、自転車修理代なども含めた
3	渡航・滞在関係	ACN伊藤忠男、ボランティア浅井和英の現地渡航費用、交通費、宿泊費 (拠点滞滞時は除く)、旅行保険、その他 (ただしボランティアのVISA取得代は含まない) ※駐在時の計上経費については、『2010年度・ACN内部規定 (会計関連：カンボジア現地駐在日本人に要する諸経費の計上について)』に拠る・・・別報：『2010_ACN決算報告書』参照
4	AW土地、拠点 (家) の賃借	AW土地代は\$150/月を年2回、1/31、7/31の2回に分けて6ヶ月分を1回ごとに支払っている。拠点となった通称M4-ACNhouseは、前年4月に6/1から半年分 (\$120*2+敷金2ヶ月) \$960を支払済み、2010/11/30を持って契約終了している (2011/8/31現在は拠点なし)
5	現地光熱費	拠点となった借家の電気代、ガス代、水道代、CATV代
6	講習、研修	AWでの子供たちのスクーリング時の飲食費、外岩への交通費、飲食費など
7	現地スタッフ報酬	スタッフ給与で、毎月20日締め、25日支払い。スムロンは\$100、2011/4からキムスロイが新たなスタッフとなった。彼の給与は本年度は見習いで\$30/月。二人とも本業を別に持つ。因みにNGOの標準的な現地スタッフの給与はミニマム\$300/月程度と聞く。スムロンの本業は教師で\$83/月、キムスロイは個人タクシードライバーで、月平均\$150と聞いている
8	消耗品	文房具、資料印刷、プリンターインク、印刷用紙、ハードディスクなどコンピュータ関連の備品などを含む
9	通信	現地携帯電話のカードと、インターネット接続用の無線モデム、資材の輸送費、郵便代などを含む
10	燃料	現地で利用しているバイクのガソリン代が主
11	その他	日本語/カンボジア語の通訳、翻訳、NOCCのシェムリアブへの招聘に要した交通費、宿泊費、食事代など。本の購入費用、薬代、振込み手数料なども含む

※決算報告書は、ACN役員、ACN会員、寄付・寄贈 (カンボジアでAW利用時に利用料、レンタル料として寄付された方、ACNオリジナルグッズを購入された方を含む) された方に配布されている。その他の方で閲覧を希望される場合は、巻末連絡先へ要求してください。(Webサイトからも参照できます)

# CCF主催コンペティション

前号でお知らせしたCCF（カンボジア・クライミング連盟）主催の初めてのクライミング・コンペティションを雨季真っ只中、2011年6月26日（日）にAWにて、開催した。

大会名は、『[CCF's Pre-Angkor Cup Climbing Competition June/2011](#)』となった。

CCFは2012年より、[Angkor-Cup（アンコールカップ）](#)を国内唯一の選手権としてスタートするプランを持っている。その模擬コンペ第一回といった位置付けになる。

開催に先立ち、CCF選手登録のシステムをスタートした。18才未満のYOUTHに関しては保護者の同意を得るべくレターを発送したが残念ながらほとんどの保護者からは反応がなかった。ワークショップで‘英雄’となったロチ・ローの親権者（NCCC（孤児院）担当者）からのみ、同意しない旨の返事があり、ロチ・ローはコンペのみか今後クライミングは、少なくとも自分で進むべき道を選択できる18才まで、出来なくなった。YOUTHの保護者たちとの戦い（？）は今後も続く。

毎日夕立があるので、当日朝7時にAWをオープン、受付開始。オープンビジタークラスに3名のカンボジア人が来たが、エントリーしなかった。事前に電話連絡のあった欧米人も現れず、結果、ビジタークラスはキャンセル、CCF登録選手のみ参加となった。8時に受付を閉め、大会審判長スムロン（CCF事務局長、ACN副代表理事）からルールについて5分間のブリーフィングの後、8：15、女子の予選から開始された。



表彰式では、大会審判長スムロンから賞品が手渡された



決勝ルートフラッシュする女子優勝のティビ 16才

## ●18才未満女子

### ・Elimination round（予選）

ウォール：通称 Pillar（95°）、ルートグレード：5.9 スタイル：リード（フラッシュ）

通過者2名：In Tevy(16)完登、Duch Chansovatey(14) 完登

### ・Final round（決勝）

ウォール：通称 Pillar（95°）、ルートグレード：5.10b スタイル：リード（フラッシュ）

優勝：In Tevy(16) 完登 準優勝：Duch Chansovatey(14)

## ●18才未満男子

### ・Elimination round（予選）

ウォール：通称Pillar（95°）、ルートグレード：5.10b スタイル：リード（フラッシュ）

通過者4名：Sor Seyha(16)完登、Kheom Mesa(18)完登、Pan Mony(17)、Thneay Matsumoto(16)

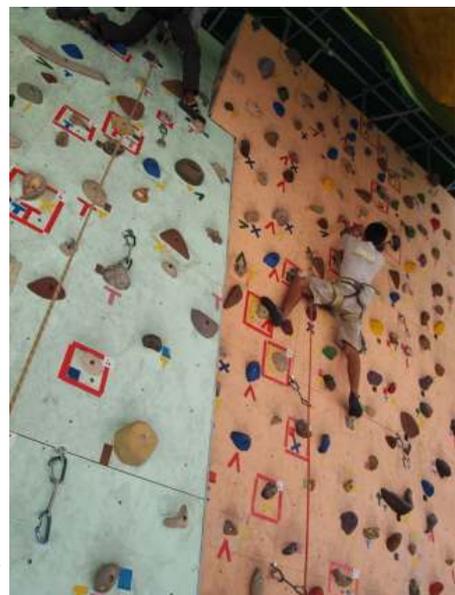
### ・Final round（決勝）

ウォール：通称 Prow（110°）、ルートグレード：5.11a スタイル：リード（オンサイト）

優勝：Sor Seyha(16)完登 準優勝：Thneay Matsumoto(16) 完登

※2人とも完登だがThneayは予選でフォールしたため準優勝となった

決勝ルートをオンサイトで完登したセイハ 16才 →



2010年10月にAWを一般公開したあと、様々な課題が浮かび上がった。NCCCの子供たちがクライミング出来なくなったのは今年の4月だったけれど、振り返ってみるとその兆しは、昨年11月にかすかにあった。NCCCの担当者との連絡がスムーズにいかなくなった。それまでにそういうことは一度も無かった。水面下で何かが起きていたのだ。6月に彼方からもってもらい“理由”が風に運ばれてきて耳に届いたが、まったく釈然としなかった。

長野県の佐久で活躍する気鋭のクライマー、31才の浅井和英氏が伊藤からバトンを受けて昨年10月から2ヶ月間、現地駐在を買って出た。彼は日本でやっている子供中心のスクーリングをカンボジアでも行った。手馴れた対応には目を見張らせられたが、しかしある日、ふと素朴な疑問が脳裏を掠めた。“大丈夫か?...”、事故が起こればACNもACNのプロジェクトもすべて木っ端微塵に吹き飛ぶ。現地に戻り、浅井氏の背後に人工壁でターザンごっこする近所のジャリちゃんを見ていたら、急に冷や汗がどっと吹き出て、心臓がパクパクしてきた。



AWで子供の誕生日パーティをやったフランス人家族

今年1月のワークショップのあと、リードのデモをやった11才のロチ・ローに刺激されてスムロンが教鞭をとるプレエンコーサ中学校の生徒も、練習に来るようになった。ほとんどが18才未満なので、親の同意がある。しかし OWN リスクはこの世界ではまだ早すぎるのかもしれない。どの親もサインを拒む。しかし OWN リスクの受入れはクライミングの真髄といえる精神の一つだ。これ一つとってもたぶん大きな意識の変革が必要なのだ。手立てはまだ分からない。途方に暮れていると言っていい。無謀とそしられそうだが、暗中模索ながら同意書の文面をより平易にしてキャンペーンを展開する方針だ、といって彼らのクライミングを止める訳にもいかない。また、クライミングの資質が高いけれど家が貧しいといった条件の子にはクライマー奨学金制度を思いついた。そして新年度となった今、ともすると混乱しそうな出来事を一本の紐で繋げてみた。私

たちはずっと外側をぐるぐる廻り続けて、やっとな腫れ物の最初のかさぶたを割ったのかもしれないことに思い当たった。そこでカンボジアの現地体制を新規巻き直しでスタートすることにしたのだ。

## ●AW一般公開

### ・受付事務

初めてのビジターの受付にはA4、4ページのラミネートされたドキュメントが用意されている。ビジターには、これをまず1ページずつ読んでいただく。利用方法、料金が寄付であることのポリシー、未成年者の利用希望について、及び、権利放棄書(英文)、同意書(カンボジア語、日本語)である。読んで理解されたことを口頭で確認の上、登録申請書と権利放棄書(日本人、カンボジア人には誓約書)に必要な事項を記入、サインをもらう。こちらでリライト出来ないような煩雑な記入は、この時点ですぐに書き直してもらう。利用料・レンタル料(寄付金)はクライミングを開始する前に受け付ける。クライミング終了時、再訪時の確認用IDカードを渡す。

### ・インストラクター及びレッスン

2011/7/1よりビジターには下記の3名で対応している

#### インストラクター2名

スムロン 35才、プレエンコーサ中学体育・英語教師、ACN副代表理事、CCF事務局長、英語堪能  
キムスロイ 32才、個人TAXIドライバー、ACN理事、英語堪能

#### アシスタント1名

メサ 18才、家事(農業)、ACN-YOUTHメンバー、プレエンコーサ中学校生徒、

有料(寄付金計上)のレッスンも開始した。

#### 体験コース (Trial for the first timer)

全くの初心者にTRでのクライミングを教える。

#### 入門コース (Introductory course)

TRでのクライミングとビレイを教える。

#### 初級者コース (Novis course)

5. 10クラスのリード、リードビレイまでを、3~5回の通いを義務付けて教える。

ビレイをするスタッフには薄皮グローブの使用を義務付けた。また、現時点では1個しかないが、グリグリは原則的にTRビレイで使う。ウォール取り付けにはクラッシュパッド4枚を置く。レッスン時、伊藤はオブザーバーとして背後に必ずいる。利用料も受講料も寄付として扱うが、これらは別々に徴収する。



本業に精を出すアシスタントのメサ

## ・セキュリティ

### － 病院連絡

現時点では保険はビジター任意。緊急時の対応として、外国人ビジター用に、旅行保険が適用されるロイヤル・アンコール・インターナショナル・ホスピタル、カンボジア人用としてラファエル州立病院への連絡カードを事務棟に大きなフォントで掲示してある。

### － ヘリコプター要請

インターナショナルSOSバンコックにヘリを要請する際に必要となるAWの緯度経度も事務棟に掲示してある。また、NOCC（カンボジア・オリンピック委員会）経由でカンボジア政府にヘリを要請することも出来る。NOCC担当窓口の連絡先も表記する予定だ。

### － エイドセットとファーストエイド

救急セットの入った専用の救急バッグを事務棟に常備している。消毒薬、包帯、バンデージ、ポイズンリムーバーなどが入っている。また、スムロンは救急救命の講習を受けている（伊藤も救急救命士だ）。今後、スタッフは全員同様の講習を受けられるように計画している。

### － 専任ドクターとの連携

専任の医療ドクター、及び看護師各1名との連携の話が進んでいる。コンペのときには、会場で待機してもらう。

### － 保険

ホーチミン/ベトナム、X-Rockで実現されているビジター用の短期掛け捨て保険について調査を開始している。カンボジアに進出しているシンガポールのフォルテ保険にも働きかける予定だ。

### － その他

緊急時の連携シュミレーションは年2回スタッフ間で実施する。

## ・レンタルギヤ管理

シューズ、ロープは2回/年程度、真水で洗濯してきた。しかし、レンタルシューズはビジターの増加に伴いそれでは十分とはいえないほど臭いが際立ってきた。カンボジアにはまだクライマーがほとんどいない。従ってビジターの多くは自分のギヤを持っていない。ほとんどのビジターがギヤレンタルを利用する。



AWでトレーニングの後、草むしりする YOUTH メンバー

ACNスタッフは日常、サンゴの粉末をシューズの中に撒く（2週間行った実験の結果、採用した方法）。ビジターには、レンタル用の新品の靴下（200リエル＝5円）を常に20枚程度用意しておき、使用を義務付ける。本案は2011年11月より実施予定。

### ・AW保守管理

ACNスタッフの通常業務としてAW定期点検、掃除、草取りをスムロンの指示により実施する。点検で見つかった不具合については、毎週末の定例MTG議題とし、計画的に補修工事を実施する。

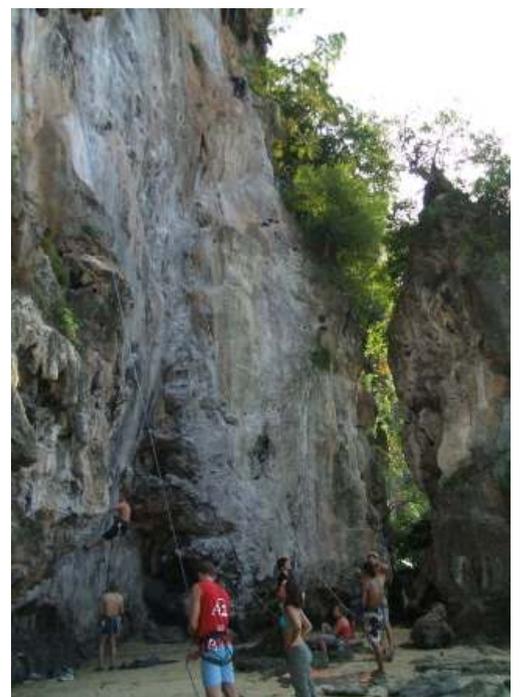
### ・スタッフ報酬

本年度報酬は月給とし、20日締め、25日支給。スムロン：\$120、キムスロイ：\$70、メサ：\$10。

## ●アウトドアガイド

2011年4月、アンコール小児病院にボランティアに来たクライマーを自称するドイツ人女性が、スムロンをシソポンの岩場に誘った。スムロンはクライミングツアーはお金になると思っていた。しかし現在の欧米諸国での同様の仕事で得られるレベルの収入を得られるほどの技術も意識も、まだ彼の中には育っていない。しかし、くだんのドイツ人女性はスムロンをプロの講師としてではなく、費用をシェア出来るパートナーとして誘ったのだ。スムロンから相談を受け、伊藤は彼女にこう話した。

『ツアーに出掛ける費用を考えてください。スムロンをツアーの経費がシェア出来る同等のパートナーと考えるのはフェアではありません。クラッグへの往復のTAXI代だけで標準的には\$60掛かります。スムロンは中学校の教師で、やっとサラリーが\$83に上がったところです。日給ではなく月給です。彼には奥さんと生まれたばかりの子供もいます。彼はACNが推薦する優秀なクライミングガイドです。英語も話せるしビレイもうまいし、アンカーも作れます。エリアにも詳しいし、土地のひとつともうまくやれます。必要なお寺にお寺に寄進したりして周囲との調和を常に思いやれます。5.10はリードするでしょう。自分のギヤは持っています。もし貴方がパートナーを欲しいのであれば、彼を合理的に雇用されるようにお奨めします。無論、必要な経費は全部貴方持ちです。彼に対する僅かな日当も考えてくださ

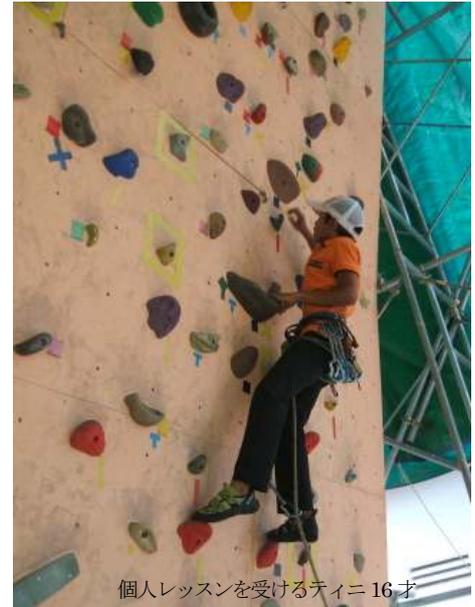


い。もし貴方がたが2～3人のパーティなら、スムロンの雇用はかなり楽なはずです。貴方にとって便利なのは、ACNが彼をクライミングに特化された障害保険に掛けていることです。本来なら雇用主がガイドに掛けるべきものです。ネパールのシェルパ(族)をご存知ですか?あるいは19世紀のヨーロッパアルプスにいた屈強のガイドたちを。カンボジアのクライミングは意識の上ではもっと以前、19世紀かなと個人的には思います。言いたいことはこうです。ツアーの安全と成功に責任があるのはガイドではなく、まったく逆で、貴方なのです』

彼女に話した“スムロン”が現状ACNが希望者に提供するクライミングガイドである。同様の問い合わせはこれまでも3回あった。返答は同じだ。ガイドはクライアントと面談し、スキルを中心とした資料を提示する。ガイドはクライアントの適性も確認する。双方合意ができれば基本契約を締結し、ガイド業務を実施する。契約書はACNが用意する。資料『ACNガイド施行要綱』にはガイド業務全体のルールとクライアント要件が網羅されている。

## ●クライマーの育成 (YOUTH、インストラクター、ガイド)

私たちは、2009年2月に初めてNCCC(孤児院)の子供たちを岩場に招いた。孤児たちは、農村開発をテーマに活動する国際NGOのしなが支援するコミュニティから依頼されて、NCCCに預けられていた。NCCCはNGOハートオブゴールドが運営者だが、運営実務はNGOのしなに委託されていた。子供たちの両親はHIVで亡くなっていたり、存命していても酒乱や統合失調症で、なかには毎夜、包丁を振り上げる錯乱した親に追いかけていた子もいたという。その日、粗粒砂岩の小さな壁にトップロープを張って遊んだ。子供たちは誰もが目を輝かせて課題に取り組んだ。幼くして損なわれた子供たちを見ていると胸が熱くなった。それから月に2回くらいの頻度で子供たちを岩場へ連れて行くようになった。AWの完成後は毎週日曜の夕方にクライミングした。孤児たちは多いときで8人。彼らは孤児院の孤児なので親権者は親代わりとなる保護者が一人だった。子供の数だけ保護者が同行することを想像すると、このことはスクーリングを運営する立場からは合理的だった。ACNは、NCCCのケースでそういった団体を扱うモデルを作ろうとしていた。しかしそれが、2011年4月に頓挫した。外部から見えない問題が起きていたのかもしれない。ACNはあらためて運営者にオウンリスクの同意を求めたが拒否された。かくしてNCCCの子供たちは自分の意志で進む道を選べるようになる18才まではクライミングは出来なくなった。



個人レッスンを受けるティニ16才

入れ替わるように市内中学校の生徒がAWに来るようになった。ロチ・ローのデモクライミングに刺激されたからだ。しかし最初に述べたようにここでもまたオウンリスクの壁が立ちはだかった。私たちだけがダッシュしようとしている、急にそんな気がしてきた。日本でさえ子供や障害を持った人たちがクライミングに参加するようになったのは極く最近だ。そこまで30年の歩みがあった。私たちはそれを一気に飛び越えて結果だけを持ち込もうとしているのではないか。

とはいえ、クライミングの歴史的な観点から言えば逆になるが、ACNは、否応もなく、子供たち、スポーツクライミング、コンペをキーワードにカンボジア人自身の自立的なクライミングの実現を手伝っていくことになるという認識を強めている。自然の中での本来のクライミングは、クライミングがある程度根付くときが来れば、そのときにそれぞれの志向に応じて無理なく選択されることになるだろう。そして、YOUTHの中からインストラクターやガイドに巣立っていく子も出てくるに違いない。

稚拙ながらコンペらしいことをやった感触から言えば、漫然と登っているよりもずっと彼らの上昇志向を刺激することが分かった。何事にも常にそこに至るまでの小さな山が必要なのだ。そしてやがて、クライミングが根付き、一定の指導者層が育てば、日本でも見るような障害者や心に傷を抱いた子供たちを対象にしたスクーリングの実現する日がやって来るだろう。

## ●パースペクティブ

2013年1月でAWの土地賃借契約が切れる。それを機会にウォールをより合理的な場所に移す意向だ。移動を機にウォールは建物の中に納める室内型としたい。紫外線と雨季の雨からの保護、そしてセキュリティの観点から



CCFtoACNの看板が立ったAW

もそれを必然と考えるようになった。資金調達の見通しはない。しかし単純な戦略はある。集まった資金に応じて臨機応変、じわじわと工事を進めるだけだ。これをカンボジアでは俗にNGO方式と呼ぶ。

## ●新人事

- ・2011/6/30 代表理事・伊藤忠男は、理事・高木智子氏から理事辞任の意志を受け、同意した。
- ・2011/7/1 代表理事・伊藤忠男は、キムスロイ氏を理事に推挙し、理事全員の承認を得た。

2011 年度役員は下記の通りとする。

NO	役	氏名	在	報酬	備考
1	代表理事	伊藤忠男	日本		継続
2	副代表理事	スムロン	カンボジア	○	継続
3	理事	キムスロイ	カンボジア	○	新
4	理事	安田至宏	日本		継続
5	監査	堀田圭子	日本		継続

※2010 年度で理事を辞任された高木智子氏には現地運営顧問をお願いしている

## いまさらですが、、、～ あらためて会員募集です ～

### \*\*\* 代表理事・伊藤から、Angkor Climbers Net (ACN) 入会のお願い \*\*\*

ACN は、カンボジアで活動する NGO (民間 (非政府) 海外開発援助組織) ですが、現時点では日本の NPO 法人ではありません。しかし日本の NPO 法人化 (は未定) を意識した組織・体制を維持して運営しています。運営は執行を担う理事会をもって実施されていますが、本来、理事会の執行方針には会員の集約された意志が配慮されなければなりません。しかし、会員は現時点で 4 名しかいません。そのうち 2 名は理事であるため、総会での表決には合理性がありません。また、NGO は長期に渡る課題への取り組みを想定して活動するのが前提ですので、会員の会費を運営のための基礎資金とするのが通例です。

#### ・人工壁の完成と運営資金

しかし ACN の場合、運営資金のベースに寄付の受入れが先行しました。個人の方から人工壁を作るなら相当額を寄付するという提案があった 2009 年 3 月より以前まで、私たちは、”仲好クラブ” 的に細々とやっていました。当時は大きな費用が掛かる訳でもなく、それまでの活動は私及び私の家族、ごく親しい友人たちからの持ち出しで購ってきました。しかしくだんの提案の後、私たちの有り様は一変しました。NGO としての受け皿が出来る前に寄付を訴えたため、会員制は視野の隅に置かれました。そしてみなさまからの寄付によってクライミング用の人工壁がカンボジアに完成しました。しかし、その後、運営に掛かる諸経費が賸えない状態が続き、じわじわと運営は窮地に追い込まれてきています。

#### ・会員制はインフラ

寄付については様々な考え方があるかと思います。例えばある方は、無理のない額を毎月、あるいは隔月に送金くださいます。また、ある方はいっぺんにまとまった額を送金くださいます。あるいはまとまった額でないと寄付はしないとといった考えの方もおられるかと思います。まったく勝手な言い分になりますが、それを受け取る立場からは、前者のように毎月、もしくは毎年決まったタイミングに決まった額をいただく方が合理的です。理由は簡単です。計画が立てられるからです。持続的な運営を考えれば、会員制はインフラであり必然のシステムだろうと思います。

#### ・2013年1月に見込む変革

私たちは人工壁の置かれている土地の賃借契約の切れる 2013 年 1 月をひとつの節目と捉えています。その際に、人工壁をもっと合理的な場所、たとえばカンボジア政府に提供していただける公共の地などに移動したいと考えています。それから、私たちの作った人工壁は、屋外型のため、カンボジアの苛烈な気候にあって保守管理に大きな負担が掛かっています。その移動のタイミングに、屋内型に変える案も検討しています。これらが実現できれば、運営のための諸経費が軽減出来ると期待できます。

以上、私たちの今後の活動は会員制により粛々と維持されていくのが自然の流れかと考えるに到りました。

どうぞ入会をご検討いただくようお願い致します。

会員の定義等は Web サイト：[www.angkorclimbers.net](http://www.angkorclimbers.net) でご覧になれます。

## From ACN' s Desk : 事務局から

### ・寄付・寄贈について

2011/8/31 現在までの、寄付金累積総額は、**¥3,429,873 + US\$6,320** となりました。また、里親基金累計総額は、**¥770,000** です。ご寄付いただいた方、及び里親となっていたいただいた方は、**58 名様**となっています。大変ありがとうございました。

2011 年 4 月～8 月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお本お知らせは、email 版ニューズレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしています。

#### 一寄付、寄贈

堀田圭子様、虎本節子様、安田至宏様、高橋千鶴子様、大岩明子様、伊藤文博・君江様 (順不同)

#### 一里親

堀田圭子様、才原明男様、榎澤健治様、清水不二様 (順不同)

#### 一備品寄贈

尾崎美幸様、安田至宏様、堀田圭子様、榎澤健治様、伊藤洋美様、(株)モンベル様 (順不同)



★★★ 寄付金用口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010  
番号 75286831  
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店  
預金種目：普通預金 口座番号：0081781  
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認出来ます  
[http://www.angkorclimbers.net/can\\_donation.html](http://www.angkorclimbers.net/can_donation.html)

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）  
伊藤忠男気付  
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506  
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）  
Angkor Climbers Net (ACN)  
tel. +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

・郵便住所  
POBOX 93044, Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

・所在地  
c/o Moloppor Café  
Wat Bou village, Salakomrauk commune  
Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

■ email [info@angkorclimbers.net](mailto:info@angkorclimbers.net)



**Wrong Sample →**

出来ればボクのいるときにやってほしかったキケンな間違い。現地から送られてきた日曜トレーニングの写真です。

**←Prolung Khmer Training Center**

高木智子さん（元理事）の指導でカンボジアの伝統的な布作りが実現される現場。シエムリアップ近郊バクコンにある。ACN クロマーもここで作られています。



contents

- 0 1 Khmer Youth's Hiking  
Sacred summite of Mt.Kulen
- 0 2 **Annual Accounting Report 2010**
- 0 3 CCF's Pre-Angkor-Cup Competition
- 0 4 **2011 Topics**
- 2011 年度現地新体制と新たな取組み
  - AW一般公開
  - アウトドアガイド
  - クライマーの育成
  - パースペクティブ
  - 新人事
- 0 7 **会員募集**
- 0 7 From A.C.N's Desk
- 事務局から

※写真、地図、イラストはすべて ACN オリジナルコンテンツです

editor's note

7号をお届けします。eメール登録されている方には、urlからサーバーに置いたPDFにアクセスしていただきました。Emailアドレス未登録の方には、従来通り印刷して郵便でお送りしました。今号は「会計報告」が目玉ですが、じつは、伊藤の長い論説に狙いがあります。海外開発援助という、例えば飢えた子供への緊急援助を思い浮かべられると思いますが、私たちの課題は地味で分かり難いですねえ。次号では、NCCCで何があったのか、松本清嗣さんへのインタビューを予定しています。山に雪、街に木枯らして頃でしょうか。ではでは(Chu)

©禁無断転載

アンコールクライマーズネットニュースレター

2011年8月号 NO.7 2011年8月31日発行

非売品  
発行人 伊藤忠男  
編集人 伊藤忠男  
発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)  
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506  
tel 042-498-2488 fax 042-498-2488  
[www.angkorclimbers.net](http://www.angkorclimbers.net)